先顔百堪思伝序

嘘のうち嘘さ諫くなり是ハ正真正味の誹を得
がたし今や家師
虚庵先生は戯れとは名共いふ事して諫乃根
なる起かとく幽冥乃形なきがとく河童の屁なしとハ
以て一言一句盡其理ふるなと云事なし嗚呼通知ら
通れ世界民を行し趣るに悪戯以て苦を知め虚を
とりて実ゆゑしむるハ乎世艸木志徳ありて論為何
反ハんや先通人ハ通神にして人を法て云しむる事の出来乃
月出さんにゆかしきの野鳥程も腹鞍打て楽と志の利

春韵のまじめ月出庵

川上坂涌述

玉晴文庫
玉晴文庫